

## 第 2 ワーキンググループ報告書の概要

### 1. 経済統計整備の考え方

経済統計の現状や、新統計法の趣旨に照らした経済統計整備の考え方などを記述するとともに、報告書内容を要約。

### 2. 国民経済計算の整備と一次統計との連携強化

新しい統計法において、基幹統計として明記されている国民経済計算については、その作成の基礎となる一次統計との整合性を高め、精度の高い推計値を公表する必要がある。本節では、推計枠組みのほか基準年次・年次・四半期推計について、改善のための方策について検討を加えている。

#### (1) 国民経済計算の推計枠組みに関する諸課題

産業連関表（基本表）を含む国民経済計算体系における連携の強化、国際基準への対応、分類体系のあり方

#### (2) 国民経済計算の基準年次推計に関する諸課題

産業連関表（基本表）との整合性確保、制度部門・産業別クロス・ベンチマーク推計の実施、基本価格による産業連関表（基本表）・国民経済計算の推計、経済センサスにおける中間投入構造の把握

#### (3) 国民経済計算の年次推計に関する諸課題

三面アプローチによる GDP 推計とその調整フレームワーク、年次産業連関表の整合性確保、コモ法の構造的課題、基礎統計整備に向けた検討、価格体系に関する検討

#### (4) 国民経済計算の四半期推計（QE）に関する諸課題

主として推計方法に関する課題（主に 1 年以内の短期的取り組みを展望）

リビジョン・スタディの必要性、季節調整・四半期パターンの問題、基礎統計のノイズ処理、QE 推計に用いる基礎統計の選択、生産動態統計の高度利用、QE 推計における FISIM 導入、GDP 統計の透明性向上、利便性改善、基礎統計の公表早期化

基礎統計の整備に関する課題（主に、2～5 年程度の中期的取り組みを展望）

消費関連の基礎統計、設備投資関連の基礎統計、公的需要関連の基礎統計、サービス関連統計、分配サイドの基礎統計

### 3. ビジネスレジスターの構築

正確かつアップデートされた母集団情報の整備と各種統計調査結果及び行政記録情報

を登録することにより、新たな統計の作成をも可能とするビジネスレジスターの構築について記述している。

#### 4. 経済社会の変化等に対応した統計の重点的な整備

近年の経済活動の変化や、新たな政策課題に対応し、重点的な整備が必要な個別統計分野について記述している。

##### (1) サービス活動に係る統計の整備・充実

情報通信サービスに関する統計の整備

情報通信業の2省連携による包括的な統計調査、情報通信の利用に係る統計の改善、情報通信分野の統計担当職員の専門性の向上

知的財産活動に関する統計の整備

「知的財産活動調査」の充実、知的財産活動に係る統計の高度利用、知的財産活動と活動成果を捉えるための企業グループ統計の整備、人的資産への投資に関する統計情報の整備

サービス活動を適切に捉えるための検討

企業のサービス活動（組織内活動と業務外部化）に関する統計の整備

事業所に係る既存の統計の改善、「企業活動基本調査」等の企業に係る統計の充実、持株会社に係る統計の作成

##### (2) 新たに整備することが必要な統計分野

環境統計の段階的な整備

温室効果ガスに関する統計の整備、廃棄物・副産物の把握に関する統計の整備、環境分野（CO<sub>2</sub>、廃棄物等）分析用の産業連関表（加工）の作成、領域環境の統計情報観光に関する統計の整備

国が行う統計調査の充実・整備、都道府県観光統計の統一基準の作成及び運用、観光サテライト勘定（TSA）の充実

##### (3) 企業活動の変化等に対応した統計の整備

労働統計の整備

Employee-employer データの作成、非正規雇用者の実態把握、地域別の失業構造の把握、労働市場のフロー統計の充実、雇用創出・消失指標の開発、公共職業安定所以外のルートも含めた労働需給の把握

グローバル化関連統計の整備

貿易に係る情報の高度利用、海外現地法人に関する母集団情報の充実

( 4 ) 国の基盤の実情を明らかにする統計情報の把握

財政統計の整備

政府諸機関分類の国際基準との調和、政府財政統計（GFS）の整備、政府支出の機能別 2 桁分類（COFOG）の整備、社会保障統計と財政統計の調和

ストック統計の整備

ストック統計のフレームワークの再設計、ストック統計のための基礎統計整備

5 . 既存の主な統計の点検・評価

各省庁で分散的に実施している類似の統計を産業横断的に統合し、限られたリソースを有効に活用しつつユーザーの利便性向上を図るための方策を提示している。

( 1 ) 利用者サイドの視点に立った産業統計の業種横断的な整備

企業活動に係る包括的な統計の構築、モノの生産活動に係る統計の共通化

( 2 ) 基幹統計についての検討

現行の指定統計で基幹統計とすべき統計、新たに基幹統計とすべき統計、将来、基幹統計に指定することを検討すべき統計、現行の指定統計で基幹統計とすべきでない統計